

医学系研究科

「地域包括ケアシステムの構築」にむけて

担当学部等 医学系研究科
担当学科等 公衆衛生学分野
担当者 小山 洋 教授

◎事業概要

群馬県では、健康福祉部介護高齢課を中心に「地域包括ケアシステムの構築」事業が進められている。地域社会を活性化し、地域で在宅医療の推進と介護の連携、生活支援やまちづくり、住まいなど地域社会全体で高齢者の暮らしを支える体制整備を進める上で、地域住民の理解と協力を得ていく必要がある。

高齢者の介護は県だけの取り組みで解決する問題ではなく、県医師会や介護関係者をはじめ多くの関係団体との連携が不可欠であり、何よりも、県民自身の理解と取り組みが必要である。県内における先駆的な地域介護活動の掘り起こしを行い、それを広く県民に知らせていくなどの活動が重要である。

本地域貢献事業では、県内の先駆的な活動事例について広く県民に紹介するとともに、県医師会等の関係団体との連携を模索すべくシンポジウム形式で考えていく。

高齢者の暮らしに関わる様々な主体が地域包括ケアシステム構築のために連携してシンポジウムを開催し、県民とともに考えていくことを目的とする。

テーマを「地域包括ケアシステムの構築に向けて」とし、一般県民や様々な参加者が自分の立場に置き換えて考察しやすいサブテーマを設定し、講演内容や講師等の選定を行うこととする。継続事業として制度改革の流れに合わせたテーマ設定を行う。

◎実施事業等

シンポジウム開催に向けて群馬県内における先進的な取り組み事例について調査を行った。その中からいくつかをシンポジウムの場で発表していただいた。

シンポジウムは、平成27年2月14日(土)に開催し、県民150名の参加を得て、盛大に行われた。基調講演では、元厚生労働省老健局長の宮島 俊彦氏にお越し頂き、「地域包括ケアの展望」と題してこれまでの厚生労働省での経緯や今後の高齢者ケアのあり方についてご講演頂いた。

第2部のパネルディスカッションでは、生活支援として先進的事例の紹介を田中 興一氏(大利根マロニエ会会長)および桑原 三郎氏(NPO法人よろずや余之助)にご講演いただいた。医療の立場から「医療介護の連携、在宅医療」として県医師会の長坂 資夫群馬県医師会理事から医療ネットワークの構築計画についてご紹介していただいた。医学生の方から医学部3年の坂川 由里歌氏が県内における先進的な取り組み事例の紹介と今後のあり方についての提言がなされた。

市町村での取り組みを 玉村町健康福祉課高齢政策係長 岩谷 孝司氏が講演した。群馬県健康福祉部介護高齢課認知症対策主監の尾池 久美子氏が県の立場から関係者に期待する事を講演した。コーディネータは 群馬大学社会情報学部准教授小竹 裕人先生が務めた。

◎期待される成果

少子高齢社会における高齢者介護では、地域社会の活性化が是非とも必要であり、急務である。これまで、わが国の公衆衛生活動は国主導で行われ、トップダウン方式の活動を地域住民は享受するかたちで進められ地域社会は必ずしも活動的ではなかった。しかしながら、今後、少子高齢化が進む中での在宅を中心とした高齢者介護を考える時、地域社会自らの取り組みが重要になってくる。県では、そうした地域社会のあり方を探り、先駆的な活動を見だし県全体に広めていくことを計画している。本地域貢献事業により群馬大学が県の事業を支援することにより、より大きな成果をあげられるものと期待される。

地域包括ケアシステムについては、在宅医療と介護の連携が主要課題の一つである。医学系研究科および保健学研究科を開講する群馬大学が社会貢献事業として取り組むことで、医療、保健衛生の関係者、またこれらを履修中の学生の参加も期待でき、さらに現状の課題とそれぞれが担うべき役割を認識してもらうことは、長期的な制度改革が必要とされる中、大変意義深いものと言える。